

Hitachi Koki

日立バンドソー

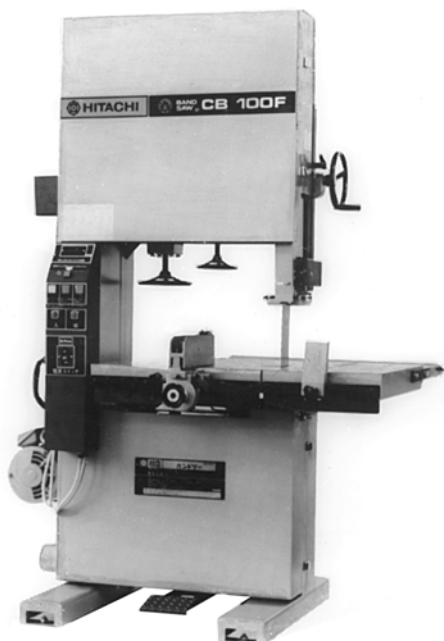
CB 100F CB 100FA

取扱説明書

このたびは日立バンドソーをお買い上げいただき、ありがとうございます。
ました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いく
ださい。

お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用くだ
さい。



CB 100F形

HITACHI

目 次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
バンドソー使用上のご注意	5
各部の名称	7
仕 様	9
付 属 品	10
別 売 部 品	10
用 途	11
作業前の準備	11
ご使用前に	15
各部の調整	17
切断作業と操作の手順	22
ブレーキの使い方	25
過負荷保護装置について	25
故障診断	27
保守・点検	28
ご修理のときは	30
営業拠点一覧	裏表紙

⚠警告, ⚠注意, 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠警告」と「⚠注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。また、「注」の意味も説明します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「⚠注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 : 製品のすえ付け, 操作, メンテナンスに関する重要なお注意。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警 告

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 作業場の周囲状況も考慮してください。
 - 電動工具は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ 感電に注意してください。
 - 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
- ④ 子供を近づけないでください。
 - 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または錠のかかる所に保管してください。
- ⑥ 無理して使用しないでください。
 - 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具とする作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ きちんとした服装で作業してください。
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれるおそれがあるので、着用しないでください。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

⚠ 警 告

- ⑨ 保護メガネを使用してください。
- 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ 防音保護具を着用してください。
- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ コードを乱暴に扱わないでください。
- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。
- 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。
- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。
- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い上げの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
 - 継ぎ（延長）コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグを電源から抜いてください。
- 使用しない、または、修理する場合。
 - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。
- 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑰ 不意な始動は避けてください。
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - 電源プラグを電源にさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。

⚠ 警 告

- ⑱ 屋外使用に合った継ぎ（延長）コードを使用してください。
- 屋外で継ぎ（延長）コードを使用する場合は、キャブタイヤコード、またはキャブタイヤケーブルを使用してください。
- ⑲ 油断しないで十分注意して作業をしてください。
- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
 - 疲れているときは、使用しないでください。
- ⑳ 損傷した部品がないか点検してください。
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての個所に異常がないか確認してください。
 - 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い上げの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
 - スイッチが故障した場合は、お買い上げの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。
- ㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
- この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になるおそれがあるので、使用しないでください。
- ㉒ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、必ずお買い上げの販売店、または日立工機電動工具センターにお申し付けください。
- 修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

バンドソー使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、バンドソーとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警 告

- ① 本機は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
表示を超える電圧で使用すると、モーターや制御装置の焼損、破損およびけがの原因になります。
詳細は、15ページの「1.使用電源を確かめる」の項を参照してください。
- ② 必ずアース（接地）してください。
故障や漏電などのとき、感電のおそれがあります。
詳細は、11ページの「2.アース（接地）、漏電しゃ断器の確認」の項を参照してください。
- ③ カバーは、必ず閉じて使用してください。
カバーを開いた状態で使用すると、けがの原因になります。
- ④ 使用中は、回転している帯のこ刃に手や顔などを近づけないでください。
けがの原因になります。
- ⑤ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い上げの販売店、または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。
そのまま使用していると機体が破損したりし、けがの原因になります。
- ⑥ 継ぎ（延長）コードを使用するときは、アース（接地）線を備えた4心キャブタイヤコードを使用してください。
アース（接地）線のない3心コードですと、感電の原因になります。
- ⑦ 作業中は、手袋をしないでください。
手袋をして作業しますと、回転部に巻き込まれるおそれがあります。
- ⑧ セフティカバー(B)は必ず取付けてください。
帯のこ刃が露出し、けがの原因になります。
- ⑨ 切断作業中は、帯のこ刃に注油しないでください。
帯のこ刃が飛び出し、けがの原因になります。
- ⑩ 切断作業中は、分銅に触れないでください。
切断作業中分銅に触れますと、帯のこ刃の緊張力が変わり帯のこ刃の飛び出しの原因になります。

⚠ 注 意

- ① 帯のこ刃や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
確実でないとはずれたりし、けがの原因になります。
- ② スイッチを入れ帯のこ刃の回転が完全に上昇してから、切断作業をしてください。
モーターに無理をかけ焼損の原因となります。
- ③ 本機が正常に動作することを確認してから切断作業してください。
思わぬ動きをして、事故の原因になります。
- ④ 木材の釘、石などは取除いてから切断してください。
帯のこ刃が破損するなど、事故の原因になります。
- ⑤ 帯のこ刃に木材を急激に押付けないでください。
帯のこ刃が破損するなど、事故の原因になります。
- ⑥ 帯のこ刃の側面から荷重を加えないでください。
帯のこ刃が破損するなど、事故の原因になります。
- ⑦ 帯のこ刃を回転させたまま、放置しないでください。
けがの原因になります。

各部の名称

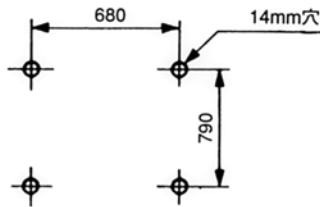
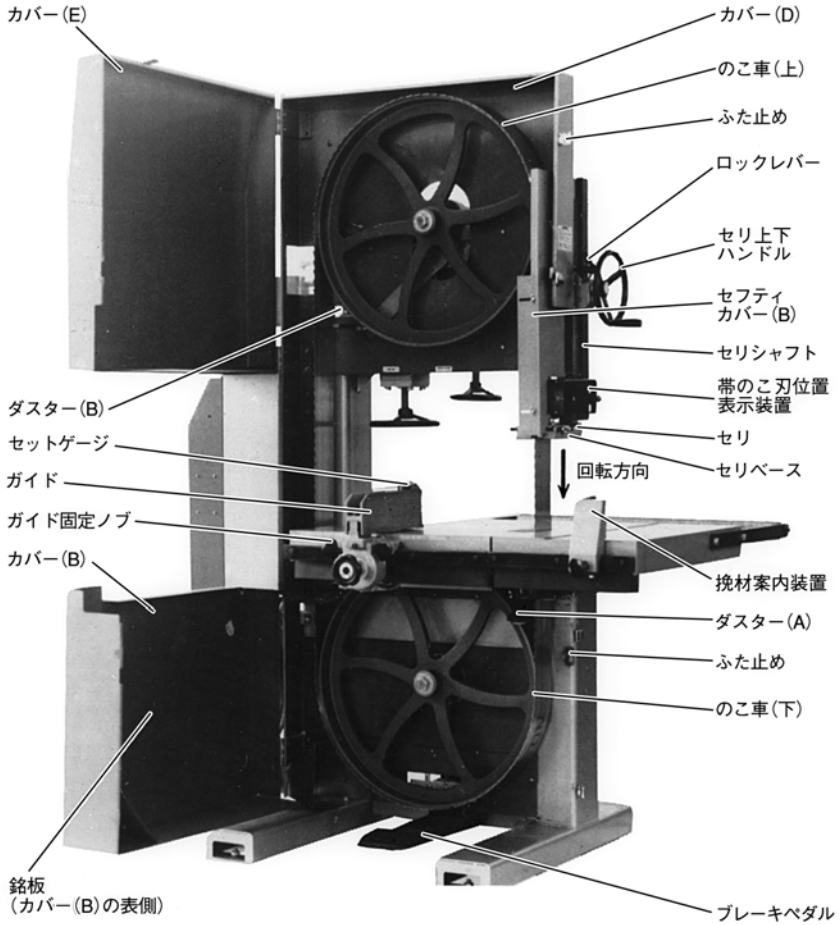


図 1

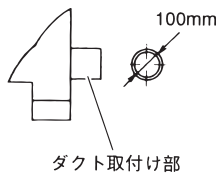
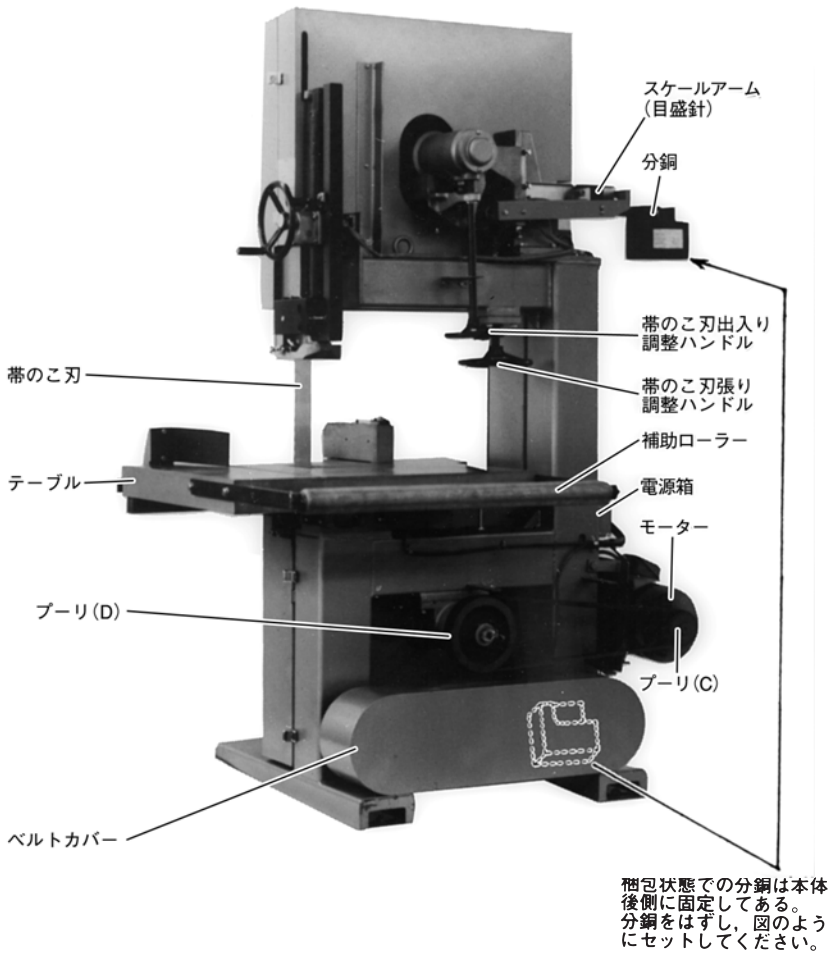


図 2

仕 様

項 目	CB100F(3HP・ミリ)	CB100F(5HP・ミリ)	CB100FA(5HP・ミリ)
	CB100F(3HP・寸)	CB100F(5HP・寸)	CB100FA(5HP・寸)
使用電源	三相交流 50/60Hz共用 200V		
切断寸法	最大挽き割り高さ	400mm (約1尺3寸3分)	
	ふところ寸法	540mm (約1尺7寸8分)	
モーター	日立全閉外扇形モーター T F O - F K		
		2.2KW	3.7KW
定格電流	50HZ	9.5A	16.8A
	60HZ	8.8A	14.6A
帯のこ刃寸法	幅102×厚さ0.8×長さ4450mm		
のこ車直径	650mm		
のこ車回転数	650min ⁻¹ {650回/分} 50Hz 780min ⁻¹ {780回/分} 60Hz		
テーブルの大きさ	幅825×奥行700mm		
テーブル傾斜	0° ~ 45°		
テーブルまでの高さ	844mm		
機体の大きさ	幅1438×奥行1200×高さ2000mm		
すえ付寸法	幅680×奥行790mm		(図1参照)
質 量	640kg	650kg	660kg

注 • CB100F形およびCB100FA形には、それぞれデジタル表示がmmと寸のものがあ
ります。デジタル表示がmmと寸のものは別製品です。

付 属 品


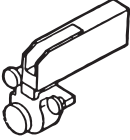






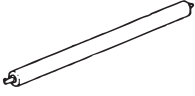

<p>①帯のこ刃 (1個) (チップ刃) (コード番号974100)</p>  <p>使い方は17ページ参照</p>	<p>②ガイド (1組) (本体装着)</p>  <p>使い方は19ページ参照</p>	<p>③挽材案内装置 (1組) (本体装着)</p>  <p>使い方は22ページ参照</p>	<p>④両口スパナ(10×13mm) (1個)</p>  <p>使い方は21,29ページ参照</p>
<p>⑤両口スパナ (17×19mm) (1個)</p>  <p>使い方は21,29ページ参照</p>	<p>⑥ボックススパナ (13mm) (1個)</p>  <p>使い方は17,18ページ参照</p>	<p>⑦六角棒スパナ (6mm) (1個)</p>  <p>使い方は25ページ参照</p>	<p>⑧六角棒スパナ (8mm) (1個)</p>  <p>使い方は19ページ参照</p>
<p>⑨補助ローラ (1組)</p>  <p>使い方は21ページ参照</p>	<p>⑩10×30mmボルト (4個)</p>  <p>使い方は21ページ参照</p>		

図 3

別 売 部 品

..... (別売部品は生産を打ち切る場合があります。)

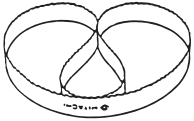
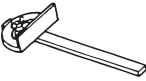
<p>①帯のこ刃 (バチアサリ刃) (コード番号 974101)</p> 	<p>②角度定規セット (コード番号 948583)</p>  <p>使い方は25ページ参照</p>
--	---

図 4

用 途

- のこ挽き作業全般
- ほぞ取り，造作用挽き割り作業
- 残り材の製材など建築現場でののこ挽き作業

作業前の準備

ご使用になる前に次の準備をすませてください。

1. す え 付 け ……………

傾斜のない平坦な場所へ，安定した状態にすえ付けてください。

2. アース（接地），漏電しゃ断器の確認 ……………

警 告

- 本機は安全面ばかりでなく誤動作を防ぐためにも，必ずアース（接地）してください。

ご使用にさきだち，本機が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置（以下漏電しゃ断器と言います。）が設置されているか確認してください。

また，本機は必ずアース（接地）をしてください。定格感度電流 15mA 以下，動作時間 0.1秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器が設置されている電源でお使いになる場合でも，より安全のためにアース（接地）されるようおすすめします。

地中にアース極（アース板，アース棒）を埋めアース（接地）線を接続するなどのアース工事は電気工事士の資格が必要ですので，お近くの電気工事店にご相談ください。

3. 本体にコードを接続する ………

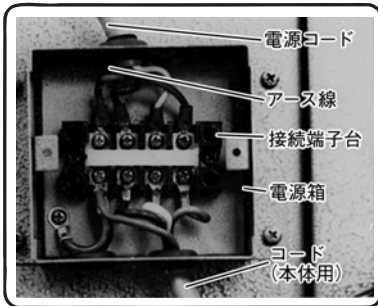


図 5

電源箱をあけ、接続端子台にコードを接続してください。(図5)

電源コードは心線が 2 mm² 以上のアース (接地) できる接地用の 1 心をもつ 4 心キャブタイヤケーブルをご使用ください。

4. 電源の接続とアース (接地) ………

⚠ 警 告

- アース (接地) 線をガス管に取付けると爆発のおそれがあります。絶対にしないでください。

電源とコードの接続は、次のようにしてください。

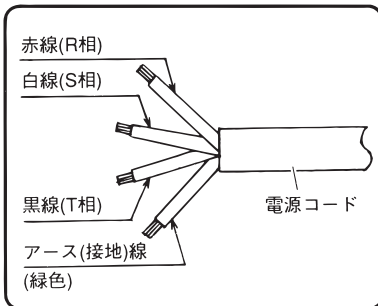


図 6

(1) コードの「アース」、または「E」と表示してある緑色の線を電源コードのアース (接地) に接続してください。

(2) コードの赤線が R 相、白線が S 相、黒線が T 相となるように電源に接続してください。

(3) アース (接地) 線 (緑色) は念のために断線、接続不良がないことを確認してからご使用ください。

なお、テスターや絶縁抵抗計をお持ちでしたら、アース (接地) 極の刃と本体金属枠との間の導通を確認してください。

5. 継ぎ (延長) コード ………

⚠ 警 告

- 継ぎ (延長) コードは、損傷のないものを使用してください。

電源の位置がはなれていて継ぎ (延長) コードが必要なときは、製品を最高の能率で故障なくご使用いただくため、電流を流すのに十分な太さのものをできるだけ短くしてご使用ください。

心線断面積	最大長さ
2mm ²	25m
3.5mm ²	47m

左の表は、コードの太さ（心線断面積）によって、本機に使用できるコードの最大長さを示します。これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因となります。

継ぎ(延長)コードは必ずアース（接地）できるアース（接地）用の1心をもつ4心ケーブルをお使いください。

6. 防錆油のふき取り ……………

工場出荷の際は、ガイド、テーブル上面にさび止めの油が塗ってあります。ご使用前に砂、土、切粉、ほこりなどの付いていない木綿の布などでふき取ってください。

7. 操作パネルについて ……………

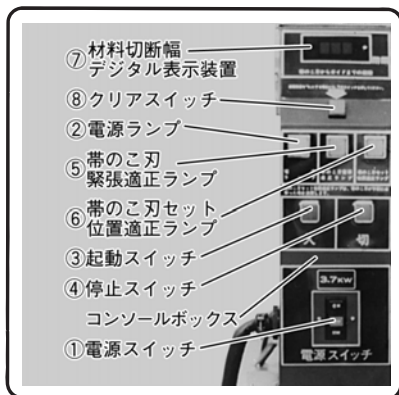


図 7

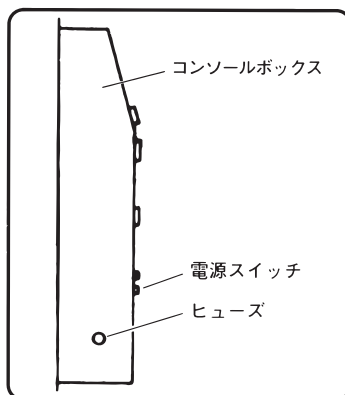


図 8

① 電源スイッチ

電源スイッチを **ON** すると電気回路内に電流が流れます。この状態でモーターは起動しません。

② 電源ランプ **白色**

電源スイッチを **ON** すると電源ランプが点灯し、電気回路内に電流が流れていることを示します。

③ 起動スイッチ **緑色**

起動スイッチの **入** のボタンを押すとモーターが起動します。

注 次の場合、起動スイッチの **入** のボタンを押しても起動しません。

- 電源スイッチを **ON** していないとき（電源ランプが消灯しているとき）
- 帯のこ刃緊張適正ランプが点灯していないとき
- 帯のこ刃セット位置適正ランプが点灯していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき

④ 停止スイッチ **赤色**

停止スイッチの **切** のボタンを押すとモートルが停止します。

⑤ 帯のこ刃緊張適正ランプ **緑色**

ランプが点燈して、帯のこ刃の緊張力が適正であることを示します。

(緊張力が適正でない場合は、ランプが消燈します。)

⑥ 帯のこ刃セット位置適正ランプ **緑色**

ランプが点燈して、のこ車に対する帯のこ刃のセット位置が適正であることを示します。

(セット位置が適正でない場合は、ランプが消燈します。)

⑦ 材料切断幅デジタル表示装置 **赤色数字**

材料切断幅(帯のこ刃からガイドまでの距離)を数字表示(mm又は寸分厘)します。

(23ページ「5.材料切断幅デジタル表示装置」の項参照のこと。)

⑧ クリアスイッチ **赤色**

クリアスイッチのボタンを押すと、⑦材料切断幅デジタル表示装置の数字がミリ表示では

		0
--	--	---

 になります。寸表示では

	.	.	0	.	0
--	---	---	---	---	---

 になります。

⑨ ヒューズ

電気回路内に過大な電流が流れないためについています。

ヒューズ仕様 ガラス管ヒューズ125ボルト (V) 1A

8. 作業環境の整備・確認 ………

作業する場所が2ページ「電動工具の安全上のご注意」の注意事項にかかげられているような適切な状態になっているかどうか確かめてください。

○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

⚠ 警 告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～6項については、電源プラグを電源にさし込む前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる ………

必ず銘板に表示してある電圧でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターや制御装置が破損するおそれがあります。また、直流電源、エンジン発電機および昇圧器などのトランス類で使用しないでください。製品が故障するだけでなく事故の原因になります。

2. スイッチが切れていることを確かめる ………

⚠ 注 意

- スイッチが入っているのを知らずに、元電源を入れると不意に起動し、思わぬ事故の原因になります。

電源スイッチは押しボタンの「入」側を押すと入り、「切」側を押すと切れます。電源スイッチの押しボタンが「切」になっていることを必ず確認してください。

3. 電源コンセントの点検 ………

電源プラグをさし込んだとき、ガタガタだったり、すぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。
そのままお使いになりますと過熱して事故の原因になります。

4. 帯のこ刃を確かめる ………

⚠ 注 意

- 帯のこ刃に刃欠け、ヒビなどの異常がないことを確認してください。異常があると、帯のこ刃が破損し、けがの原因になります。

帯のこ刃は正規のものか、また刃欠け、ヒビなどがいないか十分確認してください。

5. 帯のこ刃の張り調整および出入り調整 ………

⚠ 注 意

- 帯のこ刃の張り調整をしないでスイッチを入れますと、帯のこ刃が飛び出し、本体が破損するばかりでなく、けがの原因になります。

工場出荷時、帯のこ刃を取付けてありますが、必ず帯のこ刃の張り調整、出入り調整をしてください。(17ページ「1.帯のこ刃の張り方」の項参照)

6. 保護おおいの確認 ………

保護おおいは災害防止のためのものです。各カバーは所定の位置へ確実に取付けてください。

7. 回転方向を確かめる ………

⚠ 注 意

- 逆回転を続けると、のこ車締付けナットがゆるみ、けがの原因になりますので、直ちにスイッチを切り、運転を停止してください。

スイッチを入れたとき、帯のこ刃が矢印の方向(図1参照)に回転するのが正常です。逆回転する場合は、スイッチを切り、電源プラグを抜いて、コードの赤線(R相)と黒線(T相)をつなぎ替えてください。(図6参照)

各部の調整

⚠ 警告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグを電源から抜いておいてください。

1. 帯のこ刃の張り方 ………

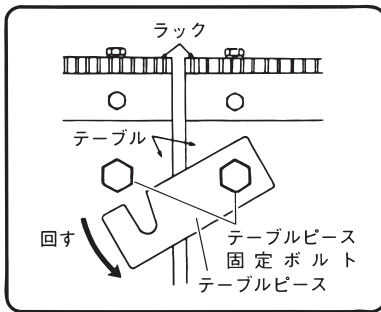


図 9

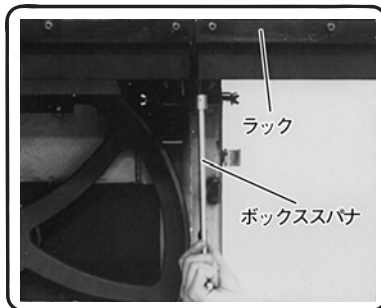


図 10

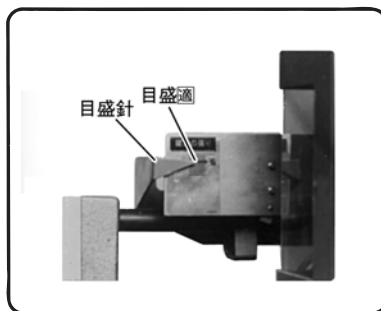


図 11

- (1) ガイド (図1 参照) が帯のこ刃にあたらないうよう左側へ移動します。
 - (2) 上下のふた止めをはずして、カバー(B)、カバー(E)を開きます。(図1 参照)
 - (3) テーブルの帯のこ刃出し入れ部 (テーブル中央の割り溝) にテーブルピースが固定されています。(図9)
- テーブルピース固定ボルト (図9 はテーブルを下から見た図です。) を付属のボックススパナでゆるめ、テーブルピースを帯のこ刃が出し入れできる位置に回します。
- (4) 5 mm チョウボルトをゆるめてセフティーカバー(B)を右側へ移動します。
 - (5) 帯のこ刃張り調整ハンドルをゆるめて、帯のこ刃をのこ車(上)・(下)に掛けます。(図1 参照)
 - (6) 帯のこ刃張り調整ハンドルを回し、目盛針を **適** 目盛 (太い目盛) の下の目盛 (細い目盛) 位置にします。(図7)
 - (7) 帯のこ車(上) を左方向と右方向へ交互に手で回しながら、帯のこ刃出入り調整ハンドルで帯のこ刃が図13の位置に安定するよう調整します。

- 注** ・ のこ車(上)を回転するときは、手が帯のこ刃に接触したり、のこ車と帯のこ刃の間にはさまれたりしないように注意してください。
- ・ 帯のこ刃出入り調整ハンドルを回したとき、目盛針が**適**目盛(太い目盛)より上に上がる場合があります。このときは、帯のこ刃張り調整ハンドルを回し、目盛針を下目の目盛(細い目盛)位置に再度調整してください。

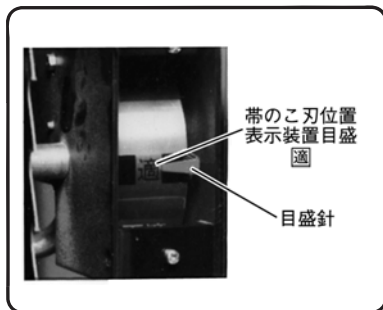


図 12

(8) 帯のこ刃張り調整ハンドルを回し、目盛針を**適**目盛(太い目盛)の位置にすると最も適した帯のこ刃の張りとなります。このとき、帯のこ刃が図13の位置に安定することを再度確認してください。

(9) セフティカバー(B)を5mmチョウボルトで取付け、テーブルピースをもとの位置に戻してテーブルピース固定ボルトで締付けます。

(10) 帯のこ刃位置表示装置は、帯のこ刃のセット位置を本体正面から見る事ができる装置で挽材作業中も、帯のこ刃の出入り状態がわかります。

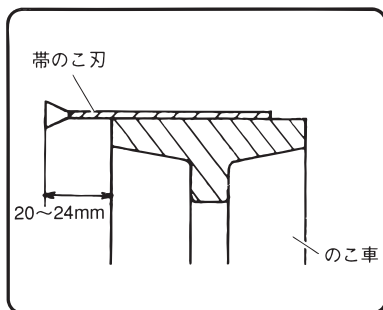


図 13

- 注** ・ セフティカバー(B)(図1参照)は必ず取付け、5mmチョウボルトでしっかり固定してください。

2. 帯のこ刃位置表示装置の調整 ……………

帯のこ刃を研磨して帯のこ刃の幅が減少した場合は、減少した帯のこ刃の幅に応じて帯のこ刃位置表示装置を次の手順で調整します。

- (1) 帯のこ刃の幅を測定します。帯のこ刃の幅は刃先から背までの寸法です。
- (2) 付属のボックススパナ(13mm)で帯のこ刃位置表示装置固定ボルトをゆるめ、アジャストスクリーを回して、測定した帯のこ刃の幅に応じてスケールの位置に合わせます。
- (3) 付属のボックススパナで帯のこ刃位置表示装置を固定します。

帯のこ刃の張り方については、P17「1.帯のこ刃の張り方」と同じです。

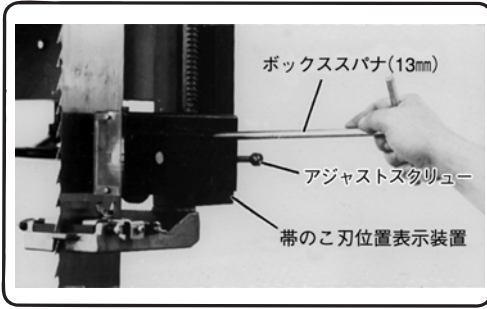


図 14

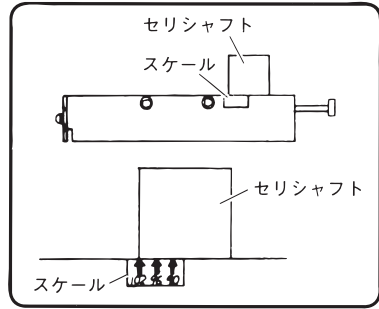


図 15

注 ・ 帯のこ刃を研磨して刃幅が90mm未満に減少した帯のこ刃は使用できません。絶対に使用しないでください。

3. ガイドの調整 ………

- (1) セットゲージをガイドと平行になるまで回します。(図16)
- (2) セットゲージを帯のこ刃の刃先がない側面に当て、平行を調整します。(図17,18)
- (3) 平行調整後は、付属の六角棒スパナ(8mm)でガイドを固定してください。(図19)

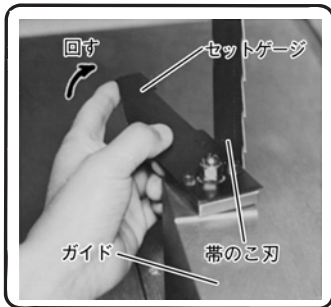


図 16



図 17

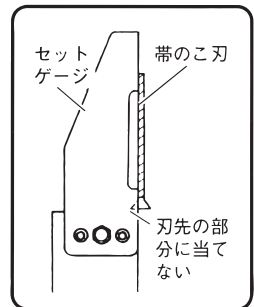


図 18

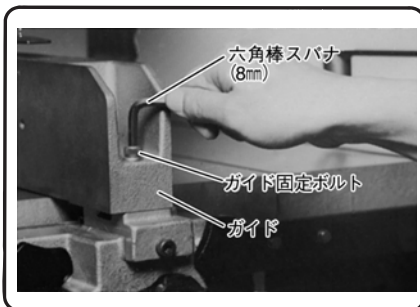


図 19

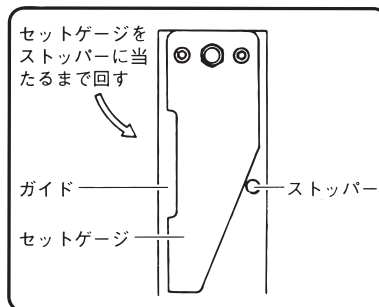


図 20

- 調整後は、必ずセットゲージをストッパーに当たるまで戻してください。(図20)い。
- ・帯のこ刃の交換後は必ずガイドを再度調整しなおしてください。

4. セリの調整 ……………

- セリで帯のこ刃をきつくはさみつけないようにしてください。
- ・帯のこ刃の交換後、または作業前には、必ずセリが調整されていることを確認してください。

セリが適正に調整されていないと、挽き曲がりの原因になります。

セリは、次のように調整してください。

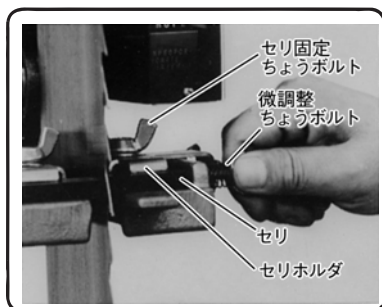


図 21

(1) 上側セリの調整 (図21)

- ① 帯のこ刃が正しく張られた状態で、セリ固定ちょうボルト(2本)をゆるめます。
- ② かるく締付けた後、微調整ちょうボルトで、セリと帯のこ刃のスキマが0.1~0.2mm(はがき1枚分程度)になるようセリを調整します。
- ③ 調整が終わりましたら、セリ固定ちょうボルトで固定してください。

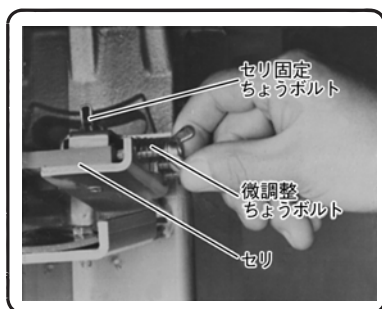


図 22

(2) 下側セリの調整 (図22)

下側のセリも上側セリの調整①~③の手順で調整します。

- 上側セリは、ロックレバーで確実にセリシャフトを固定してから調整してください。(図23)
- ・セリが帯のこ刃に片当りして帯のこ刃を片側に寄せないようにしてください。
- ・セリが帯のこ刃をはさみつけてブレーキにならないようにしてください。
- ・セリの側面を帯のこ刃の面と平行になるようにしてください。

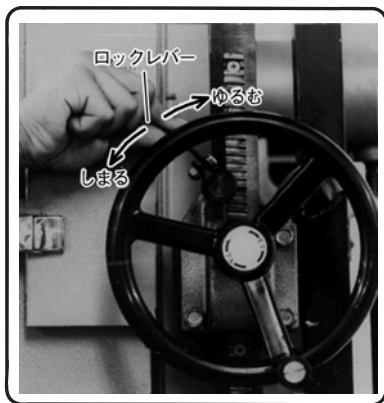


図 23

5. のこ刃押えの調整 ………

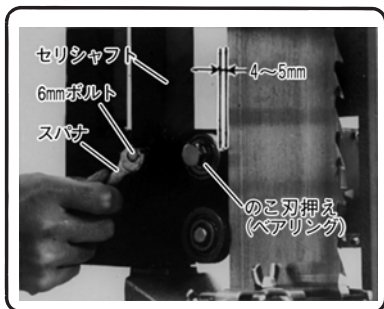


図 24

付属のスパナ (10×13mm) で 6 mm ボルトをゆるめ、のこ刃押え (ボールベアリング) を前後に移動して、帯のこ刃の背とのこ刃押えとのすきまが 4 ~ 5 mm になるように調整します。(図24)

6. 補助ローラの調整 ………

補助ローラは長尺材の挽き割り作業を行なうのに便利です。

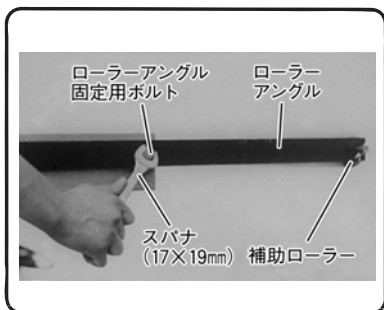


図 25

(1) 別梱包された補助ローラを取出し、ローラーアングルを付属の両口スパナ (17×19mm) でローラーアングル固定用ボルトを固定します。

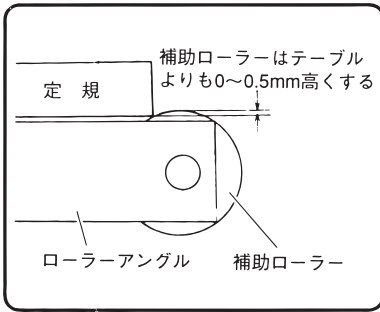


図 26

(2) 補助ローラーは、定規を用いてテーブル面より0～0.5mm程度高くすると効果的です。

切削作業と操作の手順

1. ガイドの使い方 ………

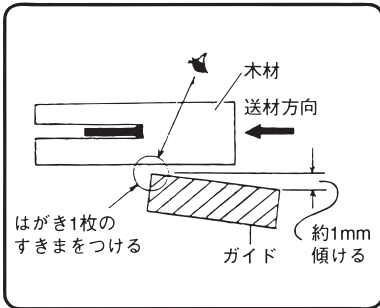


図 27

ガイドを図27のように帯のこ刃に対して約1mmぐらい傾けて、のこびき作業のときガイドの先端を目安として木材を送る方法が挽き曲がりを防ぐ“コツ”です。

ガイドの傾け方は、ガイドの調整方法と同じです。(19ページ「3.ガイドの調整」の項参照)

2. 挽材案内装置の使い方 ………

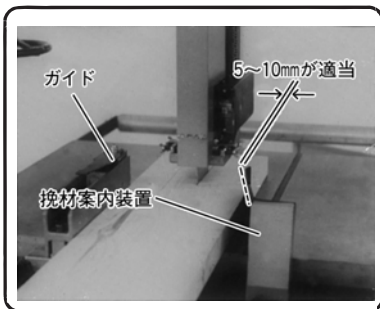


図 28

挽き曲がりを防止するために、挽材案内装置が装着されています。木材を押し付ける量は5～10mmが適当です。(図28)

3. 切断作業 ……

⚠ 警告

- 運転中に帯のこ刃張り調整ハンドル、帯のこ刃出入り調整ハンドルに触れると帯のこ刃が飛び出す原因となりますので絶対に触れないでください。
- 挽き終わりのとき、帯のこ刃に手、その他が接触しないようにしてください。

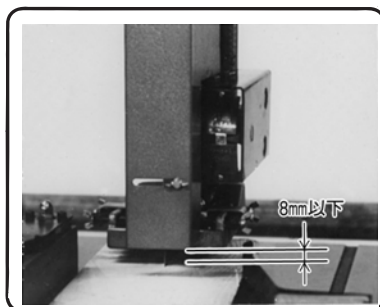


図 29

- (1) ロックレバーをゆるめ、セリ上下ハンドルを回して、木材とセリベースのすきまが8mm以下になるよう調整します。(図29)
- (2) 起動スイッチの「入」ボタンを押し、モーターを起動させて、帯のこ刃を回転させます。
- (3) テーブルの上に木材を静かに載せ、ゆっくりと送り込みます。
- (4) 木材の送り込みは図14のようにガイドの先端を目安にします。

4. 傾斜挽き作業 ……

⚠ 注意

- 傾斜挽き以外のときは、刃口板をテーブルに取付けて使用してください。

- (1) 刃口板を取付けているサラ小ネジ1本をゆるめ、刃口板を取りはずします。

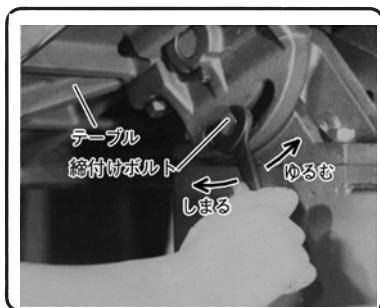


図 30

- (2) 付属の両口スパナ(17×19mm)でテーブル締付けボルトをゆるめ、傾斜挽きの角度にテーブルを傾けてテーブル締付けボルトでテーブルを固定します。(図30)
テーブルの傾斜は0～45°までできます。

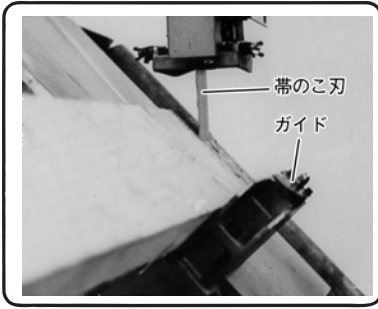


図 31

(3) ガイドを帯のこ刃の右側にして挽き割り作業をしますと傾斜挽きが容易にできます。(図31)

5. 材料切断幅デジタル表示装置の使い方 ………

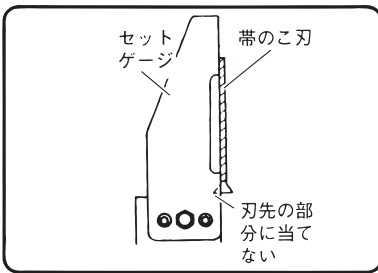


図 32

(1) セットゲージをガイドと平行になるまで回します。

(2) ガイドを帯のこ刃に近づけ、セットゲージを帯のこ刃の刃先の部分にかたく当てます。(図32)



図 33

(3) デジタル表示装置下のクリアスイッチを押して、デジタル表示を にします。(図33)

寸表示仕様品では、リセットボタンを押して、デジタル表示を にします。(図34)

注 • “0”点調整後は必ずセットゲージをもとに戻してください。

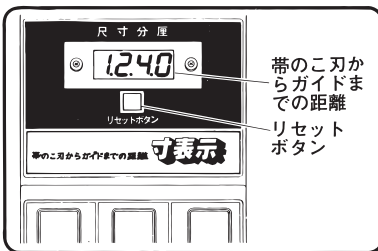


図 34

(4) ガイドを任意の寸法表示になるまで移動し、ガイド固定ノブでガイドを固定します。(図1参照)

図33は帯のこ刃からガイドまでの距離(材料切断幅寸法)が248mmにセットされていることを示します。図34は(材料切断幅寸法)1尺2寸4分0厘にセットされていることを示します。寸表示では最小表示寸法は5厘です。(最後の厘の桁の表示は と のみです。)

材料切断幅とデジタル表示との許容誤差は mm または、 分 以内です。

6. 角度定規セットの使い方 …… (別売部品)

木材を斜めにのこ挽きしたい場合は、別売部品の角度定規セットを用いると簡単に作業を行なうことができます。(図35)

(1) 角度挽きを行なう場合、木材がガイドに接触するときはガイドをはずします。ガイドはガイド固定ボルトを付属の六角棒スパナ (6mm) でゆるめてははずします。(図36,37)

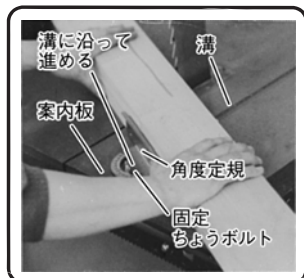


図 35

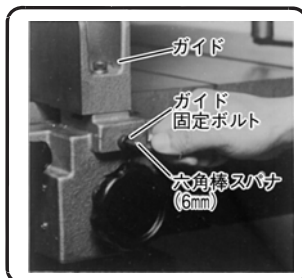


図 36

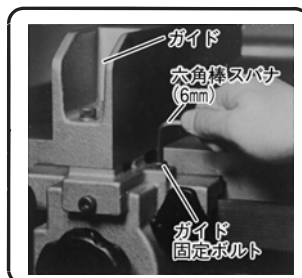


図 37

(2) 案内板の固定ちょうボルトをゆるめ、案内板を角度挽きする角度に調整します。(図35)

(3) テーブルに設けられた溝にそって角度定規を進めることにより、簡単に角度挽き作業ができます。

注 ・ ガイド全体をラックから抜きとることはできません。ガイドが不要の場合は、必ず上記の要領でガイドだけをはずしてください。

ブレーキの使い方

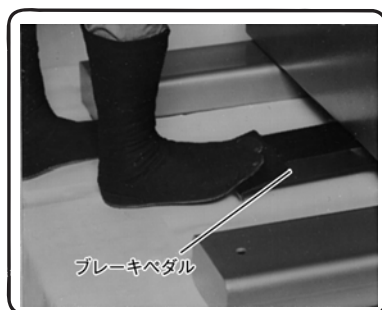


図 38

ブレーキは足踏み式 (フットブレーキ) です。起動スイッチ (図7参照) **切** のボタンを押さなくてもブレーキペダルを踏み続けると3~5秒で運転が停止します。(図38)

⚠ 警 告

・作業が終了したら、必ずスイッチを切り、電源プラグを電源から抜いてください。

過負荷保護装置(サーマルリレー)について

⚠ 警 告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグを電源から抜いておいてください。

1. C B100 F 形の場合 ………

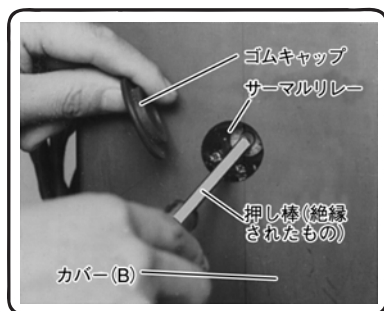


図 39

サーマルリレーは、モーターの損焼を防止するためにコンソールボックス(図8参照)内に設置してあります。作業中、急に本機が停止した場合は、サーマルリレーが作動したものと考えられますので、まず電源スイッチを切ってから、モーターの温度が下がるのを待って(約30分程度)ください。次にカバー(B)(図1参照)を開きコンソールボックス部にあるゴムキャップを取りはずして、押し棒(絶縁されたもの)をさし込み、サーマルリレーの復帰ボタンを押してください。(図39)

- 注** • サーマルリレーの復帰ボタンを押して、すぐに作業されすと、短時間でまたサーマルリレーが作動しますので、モーターの温度が下がるまで(約30分程度)待って、作業してください。

2. C B100 F A 形の場合 ………



図 40

サーマルリレーは、モーターの焼損を防止するために、電源スイッチ内に設けてあります。(図40)

作業中、急に本機が停止した場合は、サーマルリレーが作動したものと考えられます。サーマルリレーが作動した場合、電源スイッチが自動的に切れ、ランプ(3コ)、デジタル表示も全て消燈します。再び作業を行なう場合は、モーターの温度が下がるのを待って(約30分程度)作業してください。

(サーマルリレーは自動的に復帰します。)

- 注** • 電源スイッチの「入」を押して、すぐに作業されすと短時間でまたサーマルリレーが作動しますので、モーターの温度が下がるまで(約30分程度)待って、作業してください。

故障診断


1. 帯のこ刃の走行が不安定な場合 ………

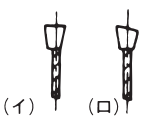
つぎのような場合、帯のこ刃の走行が不安定になるときがあります。よく点検して、適切な処置をしてください。

	原因	処置
1	帯のこ刃、のこ車にオガクズ、ヤニなどが付着しているとき	布きれ、木片等に軽油をしみ込ませて、取除いてください。
2	帯のこ刃の張り調整が適正でないとき	「帯のこ刃の張り方」の項を参照し、正しく調整してください。
3	帯のこ刃の出入り調整が適正でないとき	「帯のこ刃の張り方」の項を参照し、正しく調整してください。
4	帯のこ刃に亀裂が生じているとき 〔帯のこ刃を張った状態で点検してください。〕	帯のこ刃を交換してください。
5	帯のこ刃に施してある“腰”が弱い場合	1～4の処置をしても、走行が安定しないときは、帯のこ刃に施した腰が弱くなっております。この場合、帯のこ刃に再度腰入れをする必要があります。最寄りの {日立電動工具販売店} {日立工機電動工具センター} へ帯のこ刃への再腰入れをご用命くださるか、または帯のこ刃を交換してください。

2. まっすぐに切れない場合 ………

セリの調整とガイドの調整を正しくしても、つぎのような場合は、挽き曲がりが生じることがありますので、その原因を確かめ適切な処置を行って作業をしてください。

	原因	処置
1	帯のこ刃が切れないとき	目立て直しをしてください。
2	 帯のこ刃刃先(チップ部)が欠けたとき	目立て直しをしてください。 ただし、刃先の欠けがとびとびに1～2枚の場合には実用上支障ありません。 注 ・砂やクギが付いた木材ですと刃先の欠けの原因となりますのでご注意ください。

3	 <p>帯のこ刃目立時における刃先整形不良のとき</p>	<p>目立て直してください。 ただし、刃先の整形不良がとびとびに1～2枚の場合には実用上支障ありません。</p>
4	<p>切り始めに急激に木材を当てる</p>	<p>切り始めはゆっくりと送り、あとは木材に合った能率的な送り速度にしてください。</p>
5	<p>送り速度が速すぎるとき</p>	<p>速く送ろうと強い力で押しても、のこ刃に無理をさせるだけなので、木材に合った能率的な送り速度にしてください。</p>

保守・点検

⚠ 警 告

- 点検・手入れの際は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを電源から抜いておいてください。

1. 帯のこ刃の保守 ………

- (1) 刃先を金属、コンクリート、石などにぶつけるとステライト刃先が欠けるおそれがありますので、取扱いに十分注意してください。
- (2) 長時間ご使用にならないときは帯のこ刃をはずしておいてください。
- (3) 帯のこ刃を使用しないときは軽油を塗って“サビ”がでないように注意してください。また、使用する場合は軽油をふき取ってください。
- (4) “ヤニ”の多い木材は、帯のこ刃がしぶくなって、無駄な力を必要になったり、帯のこ刃を早く痛めることになりますので、こまめに掃除してください。
- (5) 帯のこ刃に付着したオガクズなどを木片などで取除いてください。

- 注** • 本機をご使用にならないときは、必ず帯のこ刃の張りをゆるめておいてください。長時間張った状態のままですと、帯のこ刃の腰が弱まり、挽き曲りや飛び出しの原因になります。

2. Vベルトの張り点検・調整 ……………

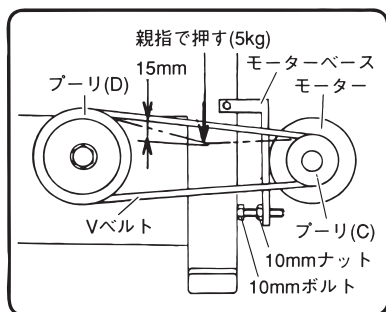


図 41

(1) 6mmボルト（3本）を付属の両口スパナ（10×13mm）ではずしてベルトカバーを取りはずします。（図 2 参照）

(2) 10mmナットを付属の両口スパナ（17×19mm）でゆるめて、10mmボルトを回してベルトの中央部を親指（約5kg）で押して15mmたわむようにします。

調整が済みましたら必ず10mmナットで確実に締付けてください。

3. のこ車・ダスターの点検 ……………

のこ車の外周にオガクズが附着しないよう、ダスター（図 1 参照）を設けておりますが、ときどき帯のこ刃をはずして、のこ車に付着したオガクズなどを軽油をしみこませた木片で取除いてください。

のこ車と帯のこ刃との間にオガクズが入ると、帯のこ刃に無理な力がかかり割れを生ずることがあります。

4. 各部取付けねじの点検 ……………

各部取付けねじで、ゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もし、ゆるんでいるところがありましたら締めなおしてください。ゆるんだままお使いになりますと事故の原因になります。

5. 注 油 ……………

(1) 機械の摺動部には常に油をさして、いつまでも高い精度を維持するようにしてください。

(2) テーブル上面、ガイド面はさびがでないよう油を塗っておいてください。

6. 清 掃 ……………

(1) ときどき本体についている切りくずや、ごみを布などでふき取ってください。モーター一部は水や油等でぬらさないようにしてください。

(2) ときどきのこ車に付着した切りくずを乾いた布などでふき取ってください。

7. 製品や付属品の保管 ……………

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- | | | | |
|---|---|---|---------------------|
| { | ○子供の手が届いたり，簡単に持ち出せる場所
○軒先など雨がかったり，湿気のある場所
○温度が急変する場所
○直射日光の当たる場所
○引火や爆発のおそれがある揮発性物質の置いてある場所 | } | このような場所には
保管しない。 |
|---|---|---|---------------------|

ご修理のときは

本機は，厳密な精度で製造されています。したがって，もし正常に作動しなくなったような場合には，決してご自分で修理をなさらないで下記のところにご用命ください。

最寄りの

- { 日立電動工具販売店 }
{ 日立工機電動工具センター }

ご不明のときは，裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他，部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら，ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれまして、修理を依頼される時便利です。

お買い上げ日	年	月	日	販売店
製造番号(No.)				電話番号

- 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全国営業拠点

営業本部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟) TEL (03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒004-0053	札幌市厚別区厚別中央3条一丁目2番20号 TEL (011) 896-1740(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号 TEL (022) 288-8676(代)
関東支店	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟) TEL (03) 5783-0608(代)
中部支店	〒451-0051	名古屋市西区則武新町一丁目32番16号 TEL (052) 533-0231(代)
北陸支店	〒920-0058	金沢市示野中町一丁目163番 TEL (076) 263-4311(代)
関西支店	〒663-8243	西宮市津門大箇町10番20号 TEL (0798) 37-2665(代)
中国支店	〒730-0826	広島市中区南吉島二丁目3番7号 TEL (082) 504-8282(代)
四国支店	〒760-0078	高松市今里町一丁目28番14号 TEL (087) 863-6761(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号 TEL (092) 621-5772(代)

- 電動工具ご相談窓口 — お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター 0120-20 8822 (無料)

※携帯電話からはご利用になれません。(土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00)

電動工具ホームページ — <http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/>

